

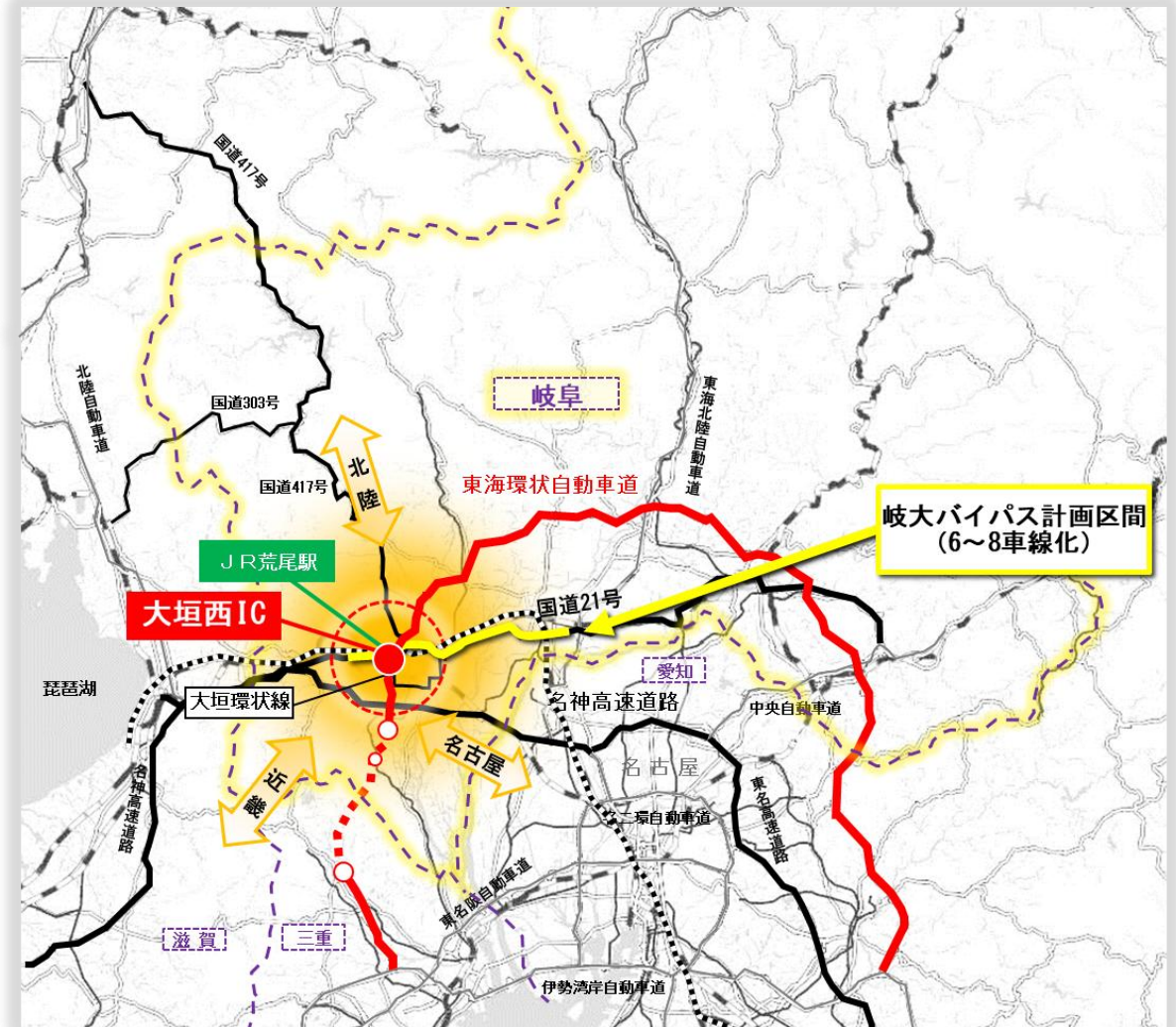


大垣西インターチェンジ周辺 道の駅等推進事業について

大垣西インターチェンジ周辺は、東海環状自動車道をはじめ、国道21号、主要地方道大垣環状線が結節するとともに、東海道本線が通り、ＪＲ荒尾駅が近傍に位置する交通の要衝です。

今後は、東海環状自動車道の全線開通が予定され、また、現在進められている国道21号岐大バイパス工事の進捗により、大垣西ＩＣと岐阜各務原ＩＣ間の交通量は、ますます増加することが見込まれています。

これらの状況を踏まえ、「ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ」にふさわしい道の駅整備に向け、段階的かつ計画的な取り組みを推進します。



広域的にみた大垣西インターチェンジの位置

ご応募お待ちしております！



大垣市マスコットキャラクター
おがっきい

お問合せ

大垣市 都市計画部 都市計画課

TEL：0584-81-4111（代表）

0584-47-8694（直通）

FAX：0584-81-4869

〒503-8601 岐阜県大垣市丸の内2丁目29番地

道の駅は2段階で整備します

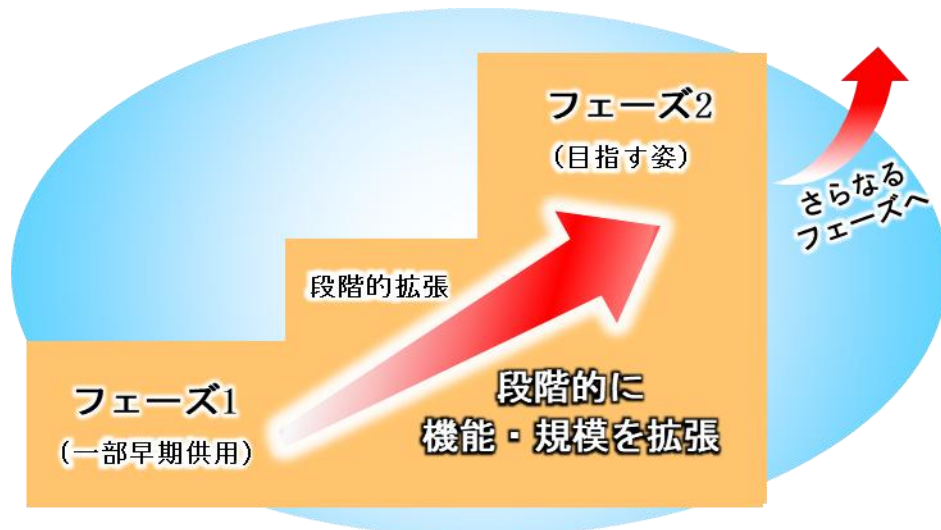
戦略的な道の駅整備

大垣西インターチェンジ周辺における道の駅は大きく分けて2段階での整備を予定しています。

「フェーズ1」として、コンテナ施設等による先行整備を行います。

「フェーズ2」では、本格的な道の駅整備を目指します。また道の駅単体ではなく民間施設や大規模公園施設等との一体的な整備を検討しています。

なお、フェーズ1はフェーズ2に向けた早期供用であるため、道の駅開駅に向けた“賑わい施設”と位置付けます。



移動型モジュールによる先駆的な施設整備

「道の駅開駅に向けたフェーズ1（賑わい施設）」



- 移動型モジュールとして、コンテナ等の施設による整備を基本とします。
- 道路利用者のための休憩施設、地元住民や観光者のための飲食物販施設や体験施設のほか、広場整備などを行う予定です。
- フェーズ2の整備までにかかる期間を有効活用し、テストマーケティングにより利用者及び運営者のニーズを把握します。

新たな“西”の大規模まちづくり整備

「道の駅フェーズ2」を含む周辺土地利用

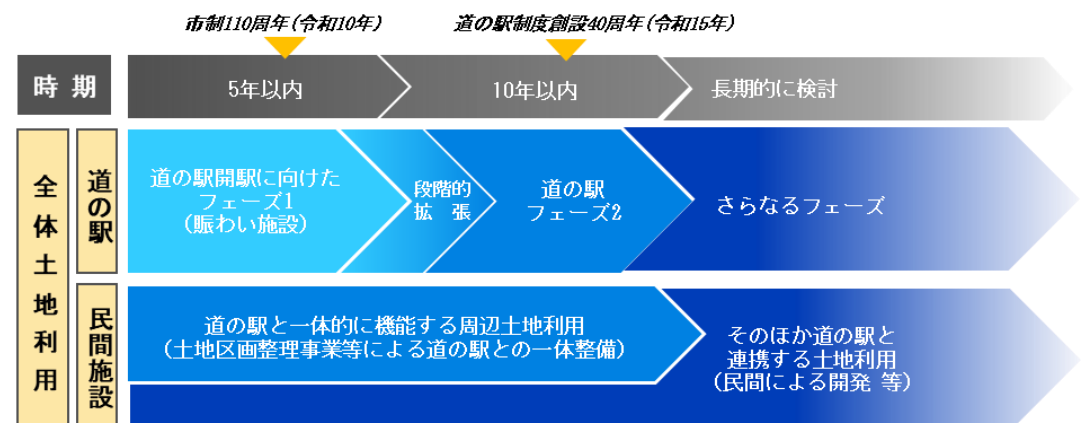


※イメージ：茨木県常総市アグリサイエンスバレー構想

- 土地区画整理事業手法により、大規模な面的整備によるまちづくりを検討しています。イメージは、茨木県常総市におけるアグリサイエンスバレー構想です。
- 道の駅、商業施設や物流施設などの民間施設、大規模公園施設などを一体的に整備することも検討しています。
- フェーズ1で得た知見などを踏まえ多角的に検討する必要があるため、多様な事業者にご参画いただき、フェーズ2のあり方検討委員会（プラットフォーム）の立ち上げも検討しています。

整備スケジュール

フェーズ1は、5年以内の整備を目指すものとし、道の駅フェーズ2を含む周辺土地利用は10年以内の整備を目指します。



さらなるフェーズを目指します！

道の駅開駅に向けた フェーズ1（賑わい施設）について

今回のサウンディング型市場調査は、この『フェーズ1』を対象として実施するものです。



（仮）マーケティングコンセプト

水都おおがきクラフト&キャンバス

～水と食を楽しみ、大垣ブランドと地域の担い手を育む場所～

大垣の誇る豊かな水と食文化、そして地元で愛される味。

地元の素材やこだわりを生かした“おいしさ”や“買い物の楽しさ”を届けることを目指します。

地域の方々や観光者が自然と足が向く魅力的な空間。安定した賑わいを施設運営の確固たる基盤としつつ、チャレンジショップやアート展示といった「トライアル機能」を取り入れ、地域の事業者や市民の新たな挑戦を後押しします。

○ メインターゲット

本地区の持つ交通アクセス優位性を最大限に生かし、広域観光客の誘客を図るとともに、地域住民が日常的に利用でき、道路利用者が快適に休息できる施設を目指します。

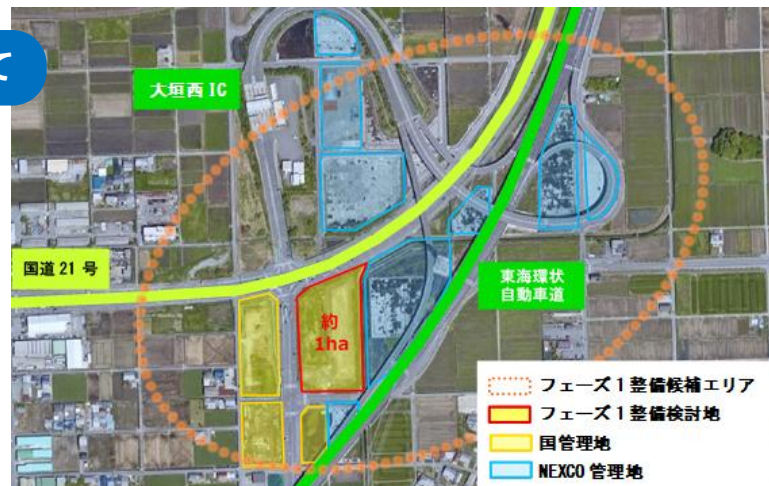
地域住民

広域観光客

道路利用者

検討している場所について

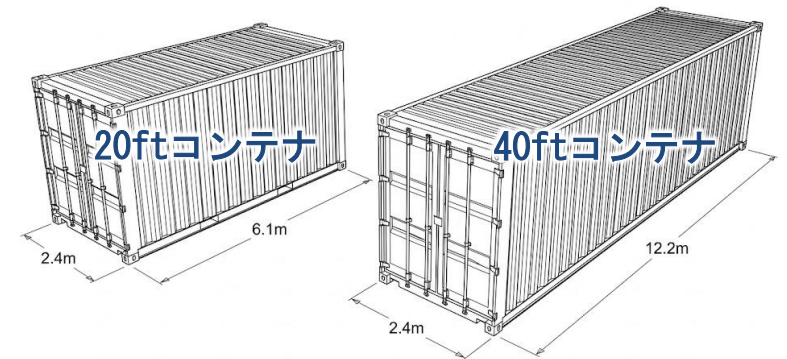
整備候補エリアは、赤枠のフェーズ1整備検討地を最優先としつつ、周辺も含めて検討しています。



検討している施設について

○ コンテナの規格

コンテナの一般的な規格には「20ft（フィート）」と「40ft」の2種類があります。



○ コンテナの活用方法例

コンテナ等の単独活用や連結によって、多様な店舗レイアウトを検討しています。

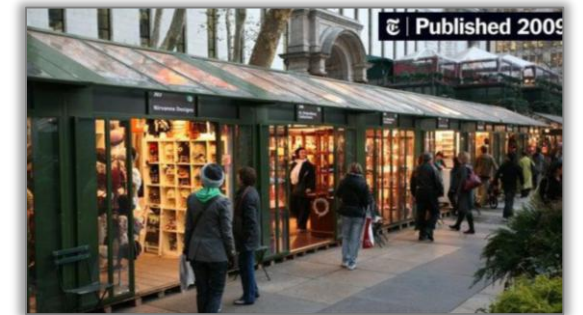
20ftコンテナ単独活用



40ftコンテナ連結活用



コンテナ以外にもトレーラハウスや簡易的な仮設店舗の設置も検討



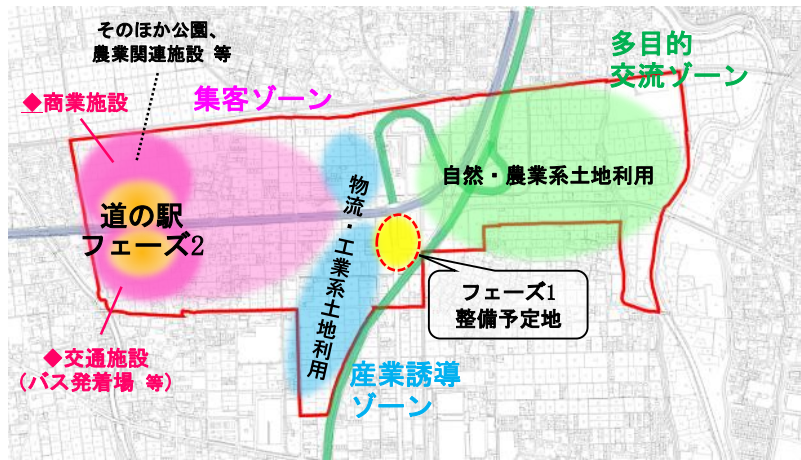
具体的に導入を検討している施設については、サウンディング型市場調査実施要領のP2をご覧ください。

フェーズ2を含む周辺土地利用について

検討している場所について

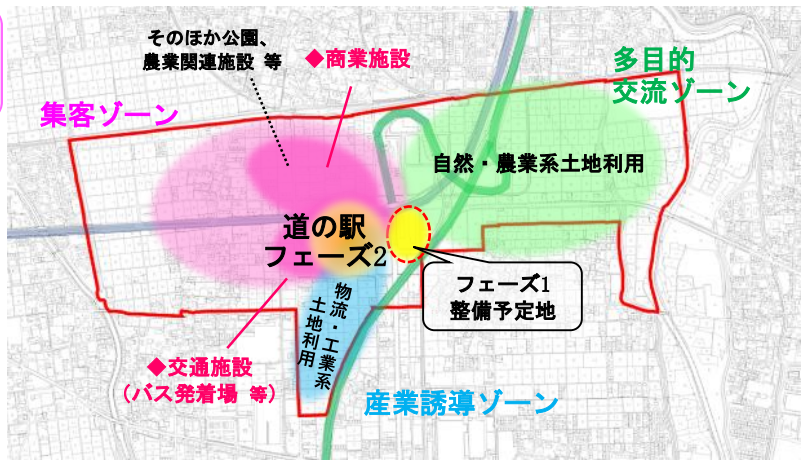
案1（敷地活用性を優先）
※ 大垣西IC西側の西方面に道の駅

敷地活用性が高く、一団のまとまった土地を確保しやすいため、様々な施設との一体性に優れた整備が可能です。



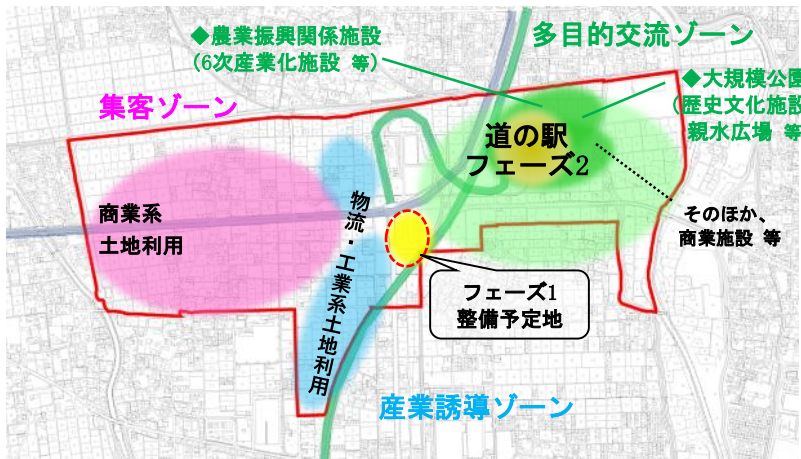
案2（フェーズ1との継続性を優先）
※ 大垣西IC西側の東方面に道の駅

フェーズ1の整備対象地に近接しているため、フェーズ1からの継続性に優れた整備が可能です。



案3（地域資源活用性を優先）
※ 大垣西IC東側に道の駅

自然資源（河川、公園、農園）が近接しているほか、歴史資源（埋蔵文化財包蔵地（検遺跡））があり、それら地域資源を活用・連携した一体的な施設整備が可能です。



検討している施設について

フェーズ2は、多機能な道の駅としての整備を検討しており、規模は3.7ha程度を想定しています。

分類	面積	具体的施設（案）
交通施設	約 1.4ha	大規模駐車場（約 9,900 m ² ）
		車中泊専用パーキング（約 400 m ² ）
		バスロータリー（約 2,300 m ² ）
		バイクステーション（約 150 m ² ）
		サイクルステーション（約 150 m ² ）
		従業員・搬入用駐車場（約 900 m ² ）
		イベント広場（約 3,000 m ² ）
屋外施設	約 2.0ha	インクルーシブパーク（イベント広場内）
		親水広場（イベント広場内）
		防災・コンテナ広場（約 2,000 m ² ）
		ドッグラン（約 1,500 m ² ）
		水素ステーション（約 1,000 m ² ）
		ドローン配送拠点（約 3,000 m ² ）
		緑地・調整池（約 9,000 m ² ）
屋内施設	約 0.3ha	農産物直売所（約 300 m ² ）
		地元特産品販売所（約 250 m ² ）
		地産地消レストラン（約 610 m ² ）
		トイレ（約 310 m ² ）
		ベビーコーナー（約 20 m ² ）
		情報発信施設（約 210 m ² ）
		行政サービス機能（約 40 m ² ）
		生活用品販売所（約 230 m ² ）
		チャレンジショップ（約 260 m ² ）
		子どもの遊戯施設（約 600 m ² ）
		多目的交流スペース（約 60 m ² ）
		大垣歴史館（約 60 m ² ）
		体験施設（約 60 m ² ）
		観光コンシェルジュ機能（約 40 m ² ）
		6次産業化施設（約 200 m ² ）
		無人販売所（約 30 m ² ）
		事務所（約 70 m ² ）
合計	約 3.7ha	

フェーズ2で目指すまちづくり

フェーズ2においては、道の駅を核としつつ、商業、工業、公園、交通等の多機能で複合的なまちづくりを目指します。

～ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ～

商業

工業
物流

道の駅

公園

交通